

(別紙4(2))
目標達成計画

事業所名 : グループホームほたるの里
 作成日 : 平成29年3月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	開所以来約6年間、視線災害での被害は発生していないが、今後大きな災害の発生は十分に考えられる。重度化が進むなか、介助の必要性の高まる等から、災害前の避難実施の判断や避難場所、避難方法、避難に係る人員体制など、困難が予想される場面が多い。	入居者及び職員、設備等の状況を鑑み、災害に対してにリスクアセスメントにより、危険要因や対策を考え、実情に合った詳細な行動マニュアルや計画書を作成する。また、定期的に見直しを実施し、必要に応じて改善を講じる。	災害において適切な対応や、避難実施時の安全で速やかな避難が実施可能となるように、実情に合ったマニュアルや計画書などを見直すほか、緊急連絡網の再点検を行う。また、職員はもとより法人内、家族、地域の協力体制などを整え、避難実施時の体制を確立する。 職員全員に避難などの行動マニュアル及び計画書などによって周知徹底を図る。	12ヶ月
2	49	季節毎の野外活動の時間を設け、季節感や風景等を味わってもらおうようにしているが、職員体制や入居者の歩行能力低下、体力の衰えなどにより、入居者全員での外出は困難となっている。また、野外活動に連れ出す入居者のメンバーも固定化しつつある。	集団的な野外活動が困難な場合は、個別にての外出支援の提供体制を整え、年1回以上は外出機会を提供する。	個々の入居者の体調面や職員の体制等を鑑み、集団的な野外活動だけでなく、個別に外出機会を設けるなどの工夫を施す。 長時間の外出が困難と思われる場合は、個々の能力や体力、体調面等を考慮し、短時間な外出機会を設ける。また、最低限、近隣の散歩などにより外気や風景にて四季を感じてもらおうように努力する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。